

捕獲柵設置によるサルの被害防止対策

1 要旨

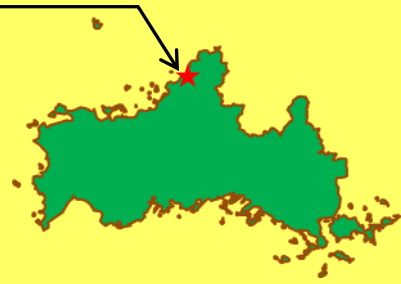
阿武町の北部海岸部に位置し水稻を基幹作物とする中山間農業地域である。近年特にサルの生息頭数の増加により、農作物への被害に加え人に対する威嚇などの加害行動も発生している。

現在の防護柵の設置や追い払いでは被害防止とならず、農作物の生産性や営農意欲の低下を招いていることから、環境整備やサル天井侵入型移動式捕獲柵等を設置し被害防止対策に取り組んでいる。

2 地区の概要

地区名	阿武町 宇田中央地区
戸数	80戸（うち農家48戸）
耕作面積	田9.8ha、畑0.6ha
主な作物	水稻、野菜、果樹
加害獣種	サル
対策実施年度	平成30年度

阿武町 宇田中央地区



3 被害の状況と課題

ワイヤーメッシュの設置によりイノシシによる被害は軽減しているがサルによる野菜、果樹の食害が発生している。

サルに関しては、防護柵の効果が無く、集落ぐるみの追い払いを行っているものの再度出没している。

4 取組内容

(1) 被害防除・生息地管理

遊休農地発生防止のための保全管理を実施し、放任果樹の除去及び農作物の残渣の処理、防護柵の補修を地域ぐるみで適切に実施している。

(2) 捕獲（個体数管理）

①既存のイノシシ捕獲柵の周辺整備を行い、計画的かつ効率的な捕獲を実施している。また、新たにサル天井侵入型移動式捕獲柵を設置し加害レベルの高いサルを群れごとに捕獲する。

- ②地域・集落による広域のかつ集落ぐるみによる狩猟免許取得を推進し鳥獣被害防止に対する意識の向上をはかり捕獲隊員の育成、確保に努めている。
- ③サルの出没と農作物が平成30年度に設置したサル天井侵入口型移動式捕獲柵の南部地域で増加した。そのため、令和元年に柵の移設を実施し、より効率的な捕獲を実施している。



捕獲柵の設置

5 取組の成果

設置後、サルが捕獲柵の周辺に寄り付かない。姿が見られない。

年度当初に柵を移動したが、効果が表れない。地区猟友会も、捕獲用の工サに様々と工夫を施すが、効果がないため、改善に向けた取り組みを継続して実施する。

(千円)

区分	平成30年度	令和元年度		令和2年度		令和3年度	
	実施前	実績	増減	実績	増減	実績	増減
サル	556	500	▲56	480	▲76	430	▲126

6 地区代表者のコメント

地区猟友会も努力されているが、捕獲柵に寄り付かない。

サル移動ルートは定まったものは無いため、今一度、地域のサルの生態を地区猟友会と一緒に点検して、少しでも成果が出るような捕獲柵にしていきたい。

7 今後の取組

捕獲柵を効率的に利用するため、生息域、出没地域の状況把握が重要であり、関係者や関係機関と連携し、地域一体で被害防止へ対応できる組織づくりを目指す。

また、効率的に捕獲が可能な場所に捕獲柵を設置し、本地区のみならず、周辺集落の被害防止にも取り組む。